

ウクライナ 日本に避難 渡航費支援

大仙の山荘 ワイン売り上げ寄付へ



販売を始めたモルドバ産ワインを持つ
佐々木さん(大仙市の奥羽山荘で)

ロシアのウクライナ侵攻で日本へ避難する人々の渡航費用に充てようと、大仙市の川口温泉奥羽山荘で、

オーナー佐々木正光さん(71)がウクライナの隣国モルドバ産のワインを販売している。ワインは7種類(税

込み3200円から)あり、売り上げの1割に、集めた寄付金を加え、日本への避難を希望する家族の航空運賃などに役立ててもらう。

佐々木さんは、1986年のチヨルノービリ(チェルノブイリ)原子力発電所事故で被曝した人々の支援に30年以上も携わってきた。ウクライナへもひんばんに渡航し、現地に知人や友人も多いという。それだけに日々報じられる現地の惨状に心を痛めており、「兄弟のようだった隣国同士でこんなことになるなんて……。何かできることはないかと考えた」と話す。

避難者の渡航後の受け入れ先として、佐々木さんも経営する会社の社宅1棟を提供することにした。8、10畳の寝室が8部屋あり、

数家族を受け入れられるという。

すでに、知人を通じて依頼された、ポーランドに避難中のウクライナ人の母と娘2人の受け入れを決めて

いるほか、モルドバに避難した3家族10人についても、渡航に必要な手続きが進められるよう手配している。

佐々木さんは「日本への航空チケット代は1人20万円前後かかる見込み。渡航後も、まずは子どもの傷ついた心のケアが必要になりそう」と心配そうな表情を浮かべた。